

リサーチ ユニット名称	アジアでトップクラスの拠点形成 ：疫学研究ユニット	
	Research Unit for Epidemiology: Establishment of Center of Excellence in Asia	
組 織		
氏名	部局・職	主な研究テーマ
(代表者) 三宅 吉博	医学系研究科・教授	研究全体総括
(構成員) 川本 龍一	医学系研究科・寄附講座教授	愛大コーホート研究
田中 景子	医学系研究科・准教授	疫学研究運営統括、母子疫学推進、コンサルト推進
西 甲介	農学研究科・准教授	機能性職印介入研究、栄養疫学研究推進
計 4 名		

【認定時公表】	
リサーチユニット名称	アジアでトップクラスの拠点形成：疫学研究ユニット
代 表 者 氏 名	三宅 吉博
【リサーチユニットとしての目的】 アジアでトップクラスの疫学研究の教育研究拠点を目指す。 A) 研究の特徴は以下の3点である。 ① 一次予防（疾病発症予防）に資する「愛大コーホート研究」、「出生前コーホート研究」、「難病の症例対照研究」等や臨床での疫学研究のデータを用いて、 数多くのエビデンスを創出 する。 ② 医療機関から電子カルテ情報を抽出するシステムを開発し、疫学データと電子カルテ由来の医療情報とを突合して、相補的に患者に関する情報の粒度を高めることにより、「愛大コーホート研究」を革新的に進化させる。対象者数、情報量とも 本邦最大規模のコーホート研究 を目指す。 ③ 従来の疫学研究の枠組みに加えて、 複雑系のモデル を取り入れた疫学データの解析を実施し、新たな視点でのエビデンス導出を試みる。 B) 本リサーチユニットの愛媛大学への波及効果は以下の4点である。 ① 「愛大コーホート研究」で市販後薬効等解析により、民間からの 外部資金獲得 を目指す。 ② 臨床での観察的疫学研究や介入研究（医師主導治験）への応用展開を加速する。 国際的治験等受託研究の獲得 を増加させ、愛媛大学病院の 臨床研究中核病院承認 を目指す。 ③ 全学的に、統計、疫学、複雑系学問の専門家を養成し、医学、医療、ビジネス、経営、行政面等で evidence-based decision making（根拠に基づいた意思決定）を推進できる人材を育成 する。 ④ 医農連携によりエビデンスに基づいた機能的食品等を開発することで、 新産業創出 に貢献する。 【リサーチユニットとしての活動実績概要】 代表的な活動実績4点 を述べる。 A) 愛大コーホート研究の推進 平成27年より愛媛県に居住する中高年を対象として、20年間追跡する「愛大コーホート研究」を実施している。現在県内9市町（平成27年：八幡浜市、28年：内子町、29年：西予市、愛南町、30年：西条市、令和元年：四国中央市、新居浜市、東温市、松山市）の協力を得、令和元年度末までに約6,000名がベースライン調査に参加予定である。英文原著論文2編を公表した。 B) 母子の疫学研究推進 出生前コーホート研究である九州・沖縄母子保健研究のデータを活用し、英文原著論文13編を公表した。3歳児横断研究である九州・沖縄小児健康調査のデータを活用し、英文原著論文4編を公表した。 C) 大規模医療情報データベース解析に関する日本イーライリリー株式会社による受託研究 メディカル・データ・ビジョン株式会社が有償で提供する日本最大規模の診療データベースを用いて、慢性関節リウマチ合併症の解析を行った。医療ビッグデータ解析のノウハウを得た。 D) 愛大コーホート研究を活用した帯状疱疹ワクチン予防効果に関する特定臨床研究の展開 愛大コーホート研究内で、羽藤直人教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）が研究代表者である帯状疱疹ワクチン効果に関する介入研究（一般財団法人阪大微生物病研究会の受託研究）を開始した。 【今後の活動計画概要（活動計画概要をポンチ絵を用いて示した上で、簡潔に記載すること）】 A) 愛大コーホート研究推進 全県的に対象者数をさらに拡大する。医療情報、介護情報等の公的情報の統合を目指す。 B) 帯状疱疹ワクチン研究推進 愛大コーホート研究参加者で所定の接種人数を達成する。 C) 母子の疫学研究推進 多数の原著論文を創出する。 D) 学内での涵養、連携 次世代の愛媛大学の教育研究の柱として疫学、公衆衛生学、データサイエンスの基盤構築に尽力する。	